

## 近森病院 看護部

看護部長 吉永富美

### 看護人員

2020年4月に、新卒看護師50名、既卒者5名を迎え、看護師541名+准看護師20名、看護補助者124名スタートした。毎年、50名前後の新人看護師を迎え、看護師の45%は20歳代である。退職は看護師50名、看護補助者3名で、離職率は8.5%（昨年9.2%）で目標値8.0%以下は達成出来なかったが、減少した。新人看護師の退職は3名で離職率は6%であり、目標値6.0%を達成した。看護師定着に向けた取り組みを強化したい。

3名が主任代行から主任に昇格、1名が師長代行から師長に昇格した。新任主任・師長研修を1年間行い、支援した。

### 今年度の取り組みとその成果

#### 《 目標管理 》

2020年度の看護部目標は、看護部理念である「思いやりの心」を大切にし、次の目標を設定した。

「一人一人が責任と思いやりの心でケアが実践する」

外来～病院～地域との連携を強化し、質の高い退院支援を実践する。

ムリ・ムラ・ムダを排し、ベッドサイドケアの時間を確保する。

必要なひと、必要なときにケアを提供するため、部署を超えて協力する。

必要なケアを必要なときに提供できるため、業務改善しケアの時間をつくる。そして、情報を共有し、部署間を超えて協力体制をつくり、実践する。昨年に引き続き、各部署の活動に予め評価基準を設定し、目標値を数値化できるものは数値化し、評価を行ってきた。看護師長には、各部署で効率化を図りながら、質保証、質向上に努めてほしいことを伝え、毎月看護師長が「管理のまとめ」に実践を記載し、3ヶ月毎の報告会では、目標の達成度と事例を通して報告した。

COVID19は、全面面会禁止の中、患者・家族にも大変影響があり、不安軽減のため、リモート面会や看護師からご家族に電話で状況報告を頻回に行うなど不安の軽減に努めた。

#### 《 急性期機能の維持 》

##### ● 看護師長による積極的なベッドコントロール、退院支援

地域医療連携室と病棟師長が連携し、退院推進カンファレンスや退院支援ラウンドを開始した。退院支援のプロセスに沿ってマネジメントできるアセスメントシートを用い、シームレスに情報が共有し、継続的な退院支援が行えるようにした。また、法人内の回復期リハ病院と関連部署の看護師長とのミーティングを定例化し、連携を強化した。平均在院日数は減少し、12.2日/年、病床回転数は2.47であった。当院で入院の多い心不全患者への療養支援は、心不全チームが中心となり、他施設や地域と連携し、退院支援を行っている。

##### ● 救急受け入れ件数の増加への取り組み

退院支援を強化し、ベッドの回転率を上げ、救急受け入れベッドの確保、救急お断りの減少を図った。ベッドの回転率が上がることで、新規入院、手術件数が増え、重症度、医療・看護必要度は35%前後でクリアできたが、救急のお断り件数は減少していない。ベッド満床による救急お断りには、入院ベッドの満床とERベッドの満床があり、入院時指示待ちの患者を救命救急病棟に移動し、ERでの滞在時間短縮を図った。今後も救命救急センターを有する急性期

病院として退院支援とベッド調整を強化したい。

- **重症度、医療・看護必要度**

2020年の診療報酬改定に伴い、「重症度、医療・看護必要度」評価が、(Ⅰ)から(Ⅱ)へ変更となった。看護部では、基準である29%を維持するため、4月～(Ⅱ)でのシミュレーションを開始。7対1病棟に対し、変更点と評価方法について説明を行うとともに、平均在院日数短縮を目指し退院支援を推進した。

### 《 ケアの質の向上 》

病棟外来の連携を図り、専門チームによる支援を強化した。認定看護師、専門看護師などのリソースナースの活躍があり、部署間の連携や継続的なケアの展開ができた。

特定行為研修修了者である特定チームがRRT活動を強化し、困難事例の介入だけでなく、部署での事例の振り返り等にも参加し、スタッフへの支援ができた。

せん妄対策は、ワーキンググループを立ち上げ、せん妄予防・せん妄対策に係るアセスメントシートを作成し、6月から運用開始し、せん妄ハイリスク患者ケア加算の取得を開始した。現在算定率は7割強を維持している。

### 《 適正な人員配置・応援体制 》

各部署の人員定数を見直し、適正な人員配置に努めた。看護協会のWLBワークショップに参加し、看護師の働き方支援や個人目標の支援を行った。限られた人員で、必要なときに適切なケアができるように昨年より強化した応援体制が定着してきた。集中系のスタッフの努力は大きいですが、外来センターや一般病棟間でも多忙な部署、人員不足な部署に積極的な応援体制が取れ、それを実績として記録するシステムもできた。

COVID19の対応は、SCU(脳卒中对応)病棟をCU(COVID19対応ユニット)病棟にして重症者の受入れを行った。ICT、多職種の協力を得て、主にSCUスタッフが対応したが、他部署からの応援も得て、乗り切ることができた。

### 《 業務の効率化 》

- **看護記録の見直し(記録の断捨離WG)**

看護師長のワーキンググループ(記録の断捨離WG)にて全部署の記録の監査を実施し、重複記録の見直し、適切な表現など検討した。看護カンファレンスの記録を統一し、中間サマリ、転棟サマリの廃止を検討している。

- **入院時の業務短縮と家族支援のために、入院セットの導入、入院時必要物品の点検や補充の改善を行った。**

### 教育委員会活動 ( 森本副看護部長報告 )

看護部教育委員会では、現場のアセスメント力・退院支援する力の向上などを目指して、新人看護師、2～3年目看護師、中堅以上の看護師を対象に研修を行った。

#### 1. クリニカルラダー研修・ラダー認定

2020年度は、ラダー認定をレベルⅠ43名、レベルⅡ11名、レベルⅢ24名、レベルⅣ5名、がされた。研修への参加者も増えており、レベルⅡの必須研修は事例検討50名、看護過程32名、倫理32名、ケース発表53名が受講している。クリニカルラダーはほぼ定着しており、今後も認定審査や研修の受講者も増えることが予測されさらに支援していきたい。

#### 2. 新人看護師研修

今年度はコロナによる感染対応のため、予定していた研修を全体的に修正した。集合教育は

極力少なくし、OJT と eラーニングへ変更した。入職時は基本的な技術である採血、筋肉・注皮下注射・点滴静脈注射などの研修を行い、BLS、急変時の対応、看護過程などは集合研修で行った。コロナ渦のため集合教育の回数が減り、同期や先輩・同僚との交流が少ないこともあり、メンタル的に不安定な新人看護師もおり院外での交流の場を設けるようにした。

### 3. 2年目看護師支援

2年目看護師を対象として、看護師技術チェックリストと成長を支援するためにメッセージカードを贈った。基本的な看護技術はほぼ達成できていたが、部署で経験できない技術については、他部署で経験できるように支援している。未到達の項目については、3年目まで継続して支援する。

### 4. 3～4年目看護師支援（急変にきづく）

急変に結びつく危険な兆候について、事例を通じて学ぶことを目的に研修を行なった。コロナ渦のため開催予定どうりに行えず、参加者は20名であったが研修への満足度は高く実践に役立つ内容であるとの意見が多くあった。

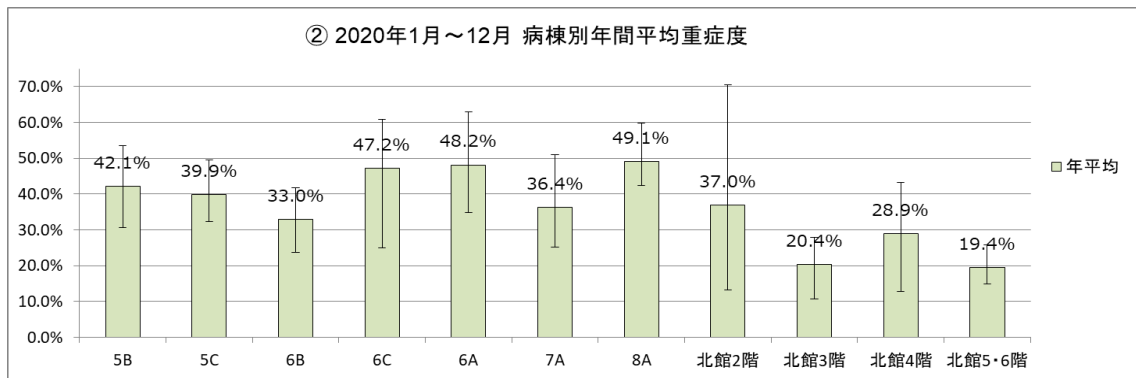
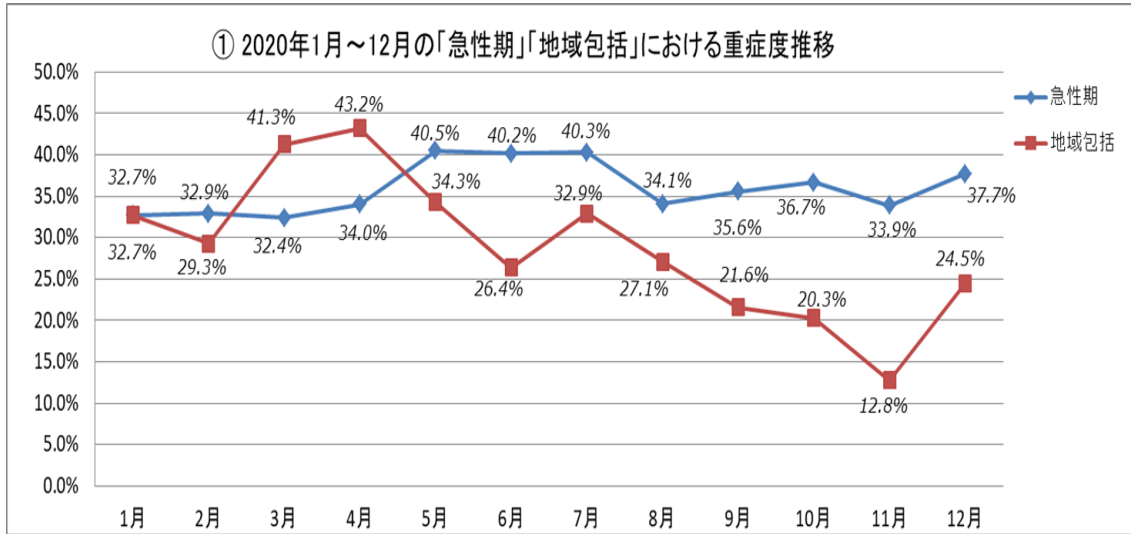
### 5. 中堅以上の看護師への支援

中堅上の看護師については、これまで院内・院外研修への参加を促してきたが、今年度は参加が十分にできないことからeラーニングによる受講をより進めるようにした。

退院支援研修については、現場でリーダーとしての役割が担える看護師を対象に行い29名が受講終了し、今後も現場で活躍できることを期待している。

## ○2020年度近森病院看護部 教育委員会 研修実績

日程	内容	講師・発表	参加数
9月3日	急性期からはじめ退院支援 意思決定支援について	山本詩帆	32名
9月11日	急変予測①	門田航	17名
10月2日	患者の自立を目指した内服管理について考えよう	山本詩帆	29名
10月9日	急変時予測②	小原絵理	17名
11月6日	急性期からはじめる退院支援 介護指導について考えよう	山本詩帆	31名
11月13日	急変予測①	門田航	20名
12月11日	急変時予測② 感染対応のため中止	小原絵理	20名



2020年 看護部実績（出張 学会発表 執筆 等）

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
肝動脈化学塞栓術クリニカルパス改訂—	○西村郁香 西岡成巳	日本クリニカルパス学会学術集会	1/17.1/18 熊本
入退院センターが記録した入院前支援情報の病棟看護師による活用状況	○山本詩帆 岩本佐和 中嶋久美 岩井千代美	第25回日本在宅ケア学会学術集 (Web配信)	6/27 高知
心不全チームにおける外来看護師の役割	○田中美和 久保和花 岡林友季子 堀川史江 坂本真由美 正瑞美香 西理央	第25回日本在宅ケア学会学術集 (Web配信)	6/27 高知
事例検討会から考える院内トリアージのピットフォール	○上総麻里子 近森秀生、田中由紀子、榎尾幸聖、酒井由夏、町田清史	第3回近森会グループ学術集会	8/15 高知
大腿骨頸部骨折クリニカルパスを使用した患者を対象としたデータ分析	○友草杏里 尾知美穂 濱田智恵 中川里奈	第3回近森会グループ学術集会	8/15 高知
救命救急センターにおける看護師の家族ケア時のジレンマ	○笹岡志織 高橋沙霧、野村早希、	第3回近森会グループ学術集会	8/15 高知
救命救急センター看護師のエンゼルケアに関する問題点	○別役祐弥 宮川佑紀、三本彩可、池澤友朗、酒井由夏、町田清史	第3回近森会グループ学術集会	8/15 高知
独居高齢がん患者が外来がん化学療法を継続していく生活体験—フレイル予防に焦点を当てて—	○清遠朋巳	第3回近森会グループ学術集会	8/15 高知
患者の主体性を高める退院支援—退院後の生活イメージを共有した看護介入がADL自立につながった事例を通して—	○山崎蓮華 山下由香、奥田みのり、高畑雅	第3回近森会グループ学術集会	8/15 高知
A病院におけるベッドサイドケアの現状	○山脇寛子 野瀬美保 上総文子 濱田智恵 森本志保	第3回近森会グループ学術集会	8/15 高知
TAVI時代におけるハートチームのコーディネーター看護師の役割	○田中眞貴子 川久保和子 吉永富美	第22回日本医療マネジメント学会学術総会	10/6.10/7 京都 Web参加

講演、外部講師

演題	講師	主催	開催
高知市医師会「PPE着脱訓練及び検体採取技術研修」	近森幹子	高知市保健所地域保健課	6/6 高知
令和2年度訪問看護師研修事業「施設-在宅の移行を支援する看護師の役割と機能」	山本詩帆	高知県看護協会	8/5 高知
感染対策の基本	近森幹子	医療法人前田会 前田病院	8/6 高知
糖尿病アドバイザー	岩井千代美	高知県幡多福祉保健所 大月病院	8/7 高知
2020 こうち看護フェア 先輩ナースとして	伊与田錬	高知県看護協会	8/9.10 高知
令和2年度地域包括ケア推進のための人材育成研修「継続看護と地域連携」	岡本充子	高知県看護協会	8/15 高知

産後のメンタルケアについて	山中俊典 萩原博	J A 高知病院	8/20 高知
令和 2 年度継続教育研修 「心不全患者の看護」	久家由美	高知県看護協会	9/11 高知
第 2 回潜在看護職員等復職支援研修 「創傷管理の基本」	安松和美(120 分)	高知県看護協会	9/18 高知
退院支援ナース養成研修	山本詩帆	徳島県看護協会	9/17.9/18 徳島
准看護師キャリアアップ研修会 「外来・病棟・施設で使える問診の 取り方」	山本暢明 山脇久男	高知県看護協会	9/26 高知
令和 2 年度地域包括ケア推進のため の人材育成研修 「地域医療連携室の役割と退院支 援」	山本詩帆	高知県看護協会	9/27 高知
地域で暮らす高齢者を支える看護職 連携の実際 2 章 看護職連携をより 促進させるための看護職の機能およ びシステム化	山本詩帆	日本看護協会	2020/10/1～ Web 配信
2020 年度高知県立大学 がん看護 インテンシブコース I 「高齢がん患 者の QOL」	岡本充子	高知県立大学	10/3 高知
2020 年度高知県立大学 がん看護 インテンシブコース I 高齢がん患者 の在宅療養移行支援	山本詩帆	高知県立大学	10/4 高知
助産師研修 「産後のメンタルケアについて学 ぶ」	山中俊典 萩原博	JA 高知病院	10/21 高知
看護学科学生に対する特別講義 「新型コロナウイルス感染症拡大禍 における医療の現状と看護」	近森幹子	高知学園短大	10/22 高知
令和 2 年度看護職員認知症対応力向 上研修	岡本充子	高知県看護協会	11/5 高知
令和 2 年度継続教育研修 「せん妄の理解と看護」	萩原博	高知県看護協会	11/27 高知
多数傷病者への対応	井上雄生 (救急救命士)	高知県警察本部災害対策課	12/3 高知
第 3 回潜在看護職員等復帰支援研修 「創傷管理の基本」	安松和美	高知県看護協会	12/17 高知
第 3 回潜在看護職員等復帰支援研修 「救急対応」	酒井由夏	高知県看護協会	12/17 高知
「在宅ケア認定看護師教育課程」開 講記念オンラインセミナー 病院で入退院支援に携わる専門看護 師の立場から	山本詩帆	徳島大学大学院医歯薬学研 究部 看護リカレント教育 センター	12/20 高知

#### 外部委員

委員会名	役割	氏名	開催
第 25 回日本在宅ケア学会学術集会	企画委員	山本詩帆	2019/4/1～ 2020/6/30 高知
高知県訪問看護推進協議会	委員	山本詩帆	2020/4/1～ 2021/3/31
高知西病院 特定行為研修実施病院管理委員会	外部構成委員	安松和美	2018～継続
高知県在宅緩和ケア推進連絡協議会 緩和ケア部会	委員	山本詩帆	2020/5/28～ 2021/3/31

高知県糖尿病性腎症重症化プログラム 予防糖尿病アドバイザー派遣事業	岩井千代美	高知県健康政策部	2020/4/1～ 2021/3/31
日本救急看護学会トリアージナース 育成研修会インストラクター	酒井由夏	日本救急看護学会	
日本褥瘡学会 高知県在宅褥創セミ ナー運営スタッフ	安松和美	日本褥瘡学会 在宅褥瘡 医療ネットワーク委員会	2020/1/11 高知
高知県消化器内視鏡技士会幹事	川村峰子	高知県消化器内視鏡技士 会	2020/4/1～2 年間
高知市医療安全推進協議会	近森幹子	高知市医療安全推進協議 会	2020.12/10 高知
高知県看護協会	災害看護委員 中央1地区理事	岡本充子	6/15～2021 年度
	継続教育委員	尾知美穂	
	研究学会委員	工藤淑恵	通常総会終了 日まで
	広報出版委員	齋藤尚子	高知
	医療安全委員	近森幹子	
	看護研究倫理審査委員	森本志保	
	ナースセンター運営協議会委員	吉永富美	
日本精神科看護協会高知県支部	教育委員 相談役	山下ちぐさ 杉村多代	4/1～3/31 高知
日本専門看護師協議会	評議員	岡本充子	6/1～ 2021/6/30
日本老年看護学会	理事 生涯学習支援委員会委員長	岡本充子	2020/6/29～ 2022年度社 員総会
高知女子大学看護学会運営委員会	役員	久保博美	2018/7/14 ～2021/7/31
日本老年看護学会	査読委員	岡本充子	2020/7/17～ 2022年度社 員総会
厚生労働省医薬・生活衛生局委託事 業「高齢者の医薬品適正使用推進事 業に係る業務手順書等の検討・作成 一式」	調査検討委員	岡本充子	2020/8/20～ 2021/3/31

看護学校等 非常勤講師

近森病院附属看護学校非常勤講師	山本詩帆	在宅看護概論、在宅看護援助論
	吉永富美	チーム医療演習
	工藤淑恵 坂本明美 酒井由夏 立石修久	災害看護・演習Ⅰ
	濱田智恵 池島真由美 徳留裕也	成人看護援助論Ⅱ 周術期看護 成人看護援助論Ⅱ 循環器看護 成人看護援助論Ⅱ 脳卒中看護
	岩井千代美 川田愛弓	成人看護援助論Ⅲ糖尿病看護 成人看護援助論Ⅲ腎泌尿器看護
	森本志保	看護管理
	久保博美	人間関係・カウンセリング
	岡本充子	老年看護援助論Ⅲ
	影山美佳	医療と安全

	武田直子 永尾三千 堀尾恵 藤近利早 山崎智世	精神看護援助論
近森病院特定行為研修講師	酒井由夏、 岩井千代美 安松和美 近森幹子 山本暢明	
高知西病院特定行為研修講師	安松和美	創傷管理関連
高知県立大学大学院	山本詩帆	在宅看護学領域専攻学生実践演習 在宅看護展開論Ⅱ
	岡本充子	老人看護実践演習Ⅲ
高知学園短期大学	近森幹子	医療と安全
龍馬看護ふくし専門学校	山本詩帆	在宅看護援助論
土佐リハビリテーションカレッジ	近森幹子	老年期作業療法Ⅰ
高知大学医学部 中央高校専攻科	清遠朋巳 永尾三千 山崎智世 堀尾恵 藤近利早	精神看護学概論、精神看護学方法論
医師会看護専門学校	中越愛	成人看護学 脳卒中看護

#### 論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
循環器看護特集 離床・リハビリについて	久家由美	学研秀潤社 月刊ナーシング	2020年7月号
看看連携に果たす退院調整看護師の役割	山本詩帆	日総研 隔月刊「地域連携 入退院と在宅支援」	2020年9.10 月号
副師長が管理者としての思考・行動 に変容するための師長の働きかけ	工藤淑恵	日総研 月刊「ナースマネー ジャー」	2020年8月号
対応マニュアル・記録用紙の作成支援—認知症対応型通所介護／認知症 対応型共同生活介護への支援	岡本充子・久保博美	看護 日本看護協会出版会	72 (13) p50-52